■松本十郎　　開拓使大判官として北海道開拓事業，アイヌから慕われながらも，国と対立して致仕，一介の農民に。
まつもとじゅうろう
蛮社の獄・・1839＝　　出羽国鶴岡の新屋敷町で，庄内藩物頭戸田文之助の嫡男に生まれる。母は満。幼名は重松。通称は総十郎。長じて直温。

阿部正弘首座1845＝ 6歳：

・・・・・・1848＝ **9歳：**
幼い頃は，身体が弱く，

尊徳報徳論・1851＝12歳：田宮流居合の修行を始めて，武芸が得意になり，剣術をもって身を立てようと考えていたが，

ペリー来航・1853＝14歳：藩校｛致道館｝に入ると，抜群の成績で頭角を現し，

この間，藩命で江戸の市中警護に携わりながら，暇を見ては，江戸昌平黌に通うことを許される。
蕃書調所・・1857**＝18歳：**

安政の大獄・1859＝20歳：黒谷市兵衛の長女と結婚。
桜田門外変・1860＝21歳：

8月18日政変 1863＝24歳：**_江戸幕府から蝦夷地西部警衛の命を受けた庄内藩により，父がロシア進出に対する警備と開発のため，物頭として，北海道の天塩の苫前に赴くのに従い，**
禁門の変・・1864＝25歳：配属が変わって，**_石狩の浜益に移動，周辺を探索し，地元のアイヌの生活など，可能な限り見聞を広め，**
薩摩藩士密航1865＝26歳：藩命で帰郷し藩校に復帰するが，幕末の動乱で，勉学どころでなく，
薩長同盟・・1866**＝27歳：**藩校を退いて，殺手組の伍長とされ，江戸市中取締のため，
大政奉還・・1867＝28歳：組隊士とともに江戸に上る。藩士のなかでも目立つ存在となり，他藩との交渉役などもを務め，
明治維新・・1868＝29歳：**_戊辰戦争では，鶴岡に戻り，近習を務めながら藩二番大隊幕僚として，奥羽各藩との交渉連絡に東奔西走，各地で新政府軍と戦うも敗北，藩主酒井忠篤は幽閉されてしまう。**
戊辰戦争終・1869＝30歳：***藩主と庄内藩の将来について陳情すべく，″松本十郎″と改名して，京都に赴くと，かねて面識あり開拓使の人材を探していた黒田清隆の部下に登用されることになり，北海道でも最果ての流刑地のような根室に派遣され，現地開拓の責任者である開拓判官に任じられる。属僚130名を連れてこの地に入って落ち着くと，**
初の日刊新聞1870＝31歳：翌年にかけて，私費を投じ，英艦艦長らの協力を得て，***北海道最初の灯台を納沙布岬に建設したのを始め，学校や牢獄を築いて風紀の改善に努めるとともに，殖産興業の推進を図る。日本人もアイヌも身分・出身を問わずに公平に扱い，自らもアイヌから貰ったという衣装″アツシ″を大切に身に着け，アイヌからも″アツシ判官″と敬意を払われ，’沈勇にして怜悧’な働きぶりが，英艦士官らによって海外にも伝わる。**
明治6年政変 1873＝34歳：父が死去して一時帰郷。**_黒田の推挙で，次官黒田に次ぐ大判官に抜擢され，直ちに辞表提出するも却下され，札幌の本庁主任となる。放漫な財政運営で巨額な赤字を抱える開拓使の行政改革と緊縮財政を進め，**
初の民間工場1875**＝36歳：**大判官としては異例の長期的本格的行政視察「石狩十勝両河」紀行を実施し，函館や札幌の土地開拓のため，旧庄内藩士を移住させるなど，**_殖産興業による移民の定住化を図るが，樺太・千島交換条約が締結されて樺太のロシア帝国領編入が確定すると，黒田が樺太アイヌを北海道に強制移住させて内陸部の農業開拓に利用しようと計画したのに対し，彼らの生活環境の維持を優先して樺太に近い地域で本来の生業である漁業に従事させることを主張して激しく対立するも，無視され，**
三つの反乱・1876＝37歳：***移民が公平に学ぶ機会が持てるようにと，札幌小学校建設に巨額の寄付をするなど，なお尽力していたが，対雁に強制移住させられた結果，慣れない生活と疫病の流行で，多くの樺太アイヌが死亡することなり，憤慨の余りに辞表を提出して，逃げるように帰郷。復職の意志の無いことが確認され，免官に。**
北海道庁初代長官になったはずと言われるほどだあったが，家督を長男に譲り，**_以後，″松農夫″と号し，**
西南戦争・・1877＝38歳：私財を投じて，戊辰戦争戦死者の招魂碑を建立し，西南戦争に際しては，旧庄内藩には謀反の意志の全くないことを政府に伝えるべく活動するなど，**_蔭でならばいくらでも社会に協力するという姿勢を保って，一介の農民として晴耕雨読の自適の生活，**
明治14年政変1881＝42歳：この年，原敬が来訪するなど，’鶴岡に松本十郎あり’として知られ，
秩父事件・・1884**＝45歳：**
帝国憲法発布1889＝50歳：
郡司千島探検1893**＝54歳：**
日清戦争始・1894＝55歳：
この間，二男二女をもうけたが，長男が30歳で病死。

この間，農業体験から学んだことや見聞したことを「農業聞書」5巻にまとめ，
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝61歳：次男が札幌の第25連隊旗手となる。

教科書疑獄・1902**＝63歳：**「工藤半三郎頌徳碑」の撰文，

日露戦争終・1905＝66歳：

ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝69歳：札幌農学校出身の庄内農学校長が来訪して，学生のために講演依頼されるも，一笑に付す。
伊藤博文暗殺1909＝70歳：この年建立された「(佐藤七郎兵衛称える)中瀬渡船碑」の撰文，

大逆事件判決1911**＝72歳：**
明治天皇没・1912＝73歳：
開拓使大判官時代でさえも家に書生を1人置いただけで，時に酒を親しむ以外は質素な生活を送って，

_生涯を振り返った回顧録「空語集」140巻を執筆し続け，
民本主義・・1916＝77歳：妻の死去後，**_根室での克明な開発記録「根室も志保草」をまとめ，支庁長に送付し，尿毒症で，没した。**

インターネットWikipediaと北海道マサチューセッツ協会ニューズレター，小松隆二「公益の種を蒔いた人びと」，